

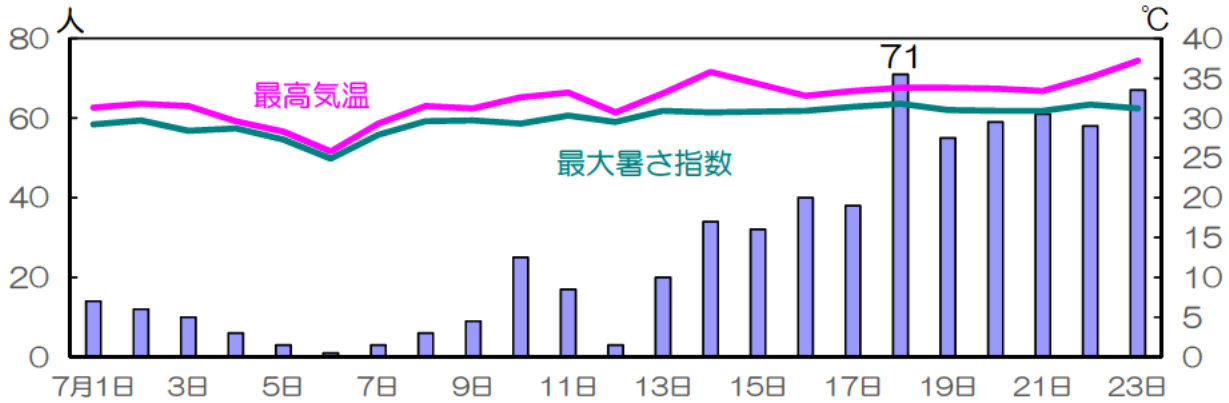
# 熱中症情報

## <搬送数>

平成30年5月1日～7月23日までの搬送数（消防局データを使用）は、計751人（5月23人、6月84人、7月644人）でした。梅雨明け後、厳しい暑さが続いており、7月の搬送数が急増しています。

7月18日以降は、特に多くなっており、連日50人以上搬送されました（18日71人、19日55人、20日59人、21日61人、22日58人、23日67人）。

異常な暑さとなっているため、こまめな水分・塩分の補給、室温は28℃を超えないように冷房を使用し、十分な休養をとる等、より一層の熱中症対策を心がけましょう。



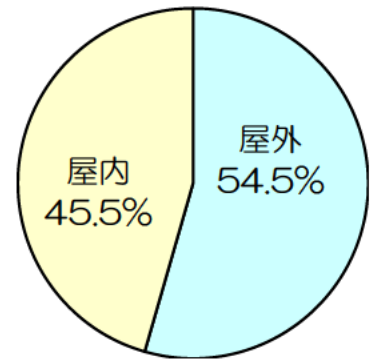
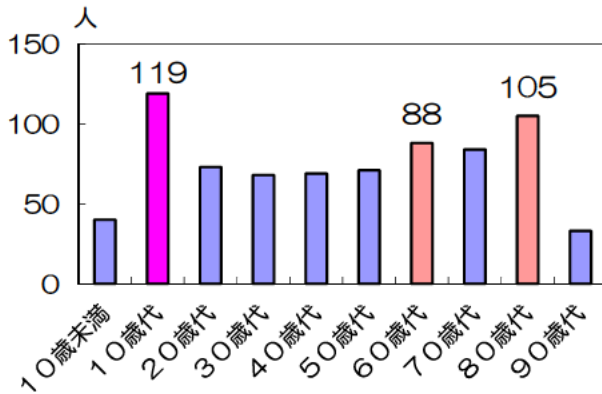
**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「[環境省熱中症予防情報サイト \(暑さ指数\(WBGT\)とは?\)](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

年齢別では、10歳代が一番多く15.8%、次に80歳代で14.0%でした。

## <発生場所>

屋外54.5%、屋内45.5%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症61.5%、中等症35.0%、重症2.4%、重篤0.9%、死亡0.1%でした。

重症以上は26人で、65歳以上が69.2%で、そのうちの55.6%が屋内で発生していました。高齢になると中等症以上が増加し、重症化の傾向が伺えます。

